

## 短期入所事業所

# 灯



「がんばりたいこと」

私のがんばりたいことは、しごととダンスです。

しごとは、お金をたくさんもらいたいからです。

ふくやかばん、かわいらしいスカートをかいたいです。

前からやっているしごとでもだけど、新しいしごとも今はやっていきます。

これからもいろんなしごとをしたいです。

前からたまにちこくしてしまっているのですが、自分のペースで、ちこくしないようにしたいです。

ダンスは、いろんなきよくで、ふりつけがむずかしいときもあるけど、おどりたいたいです。

みんなといっしょにやっているところのしいです。いろんなところに行ってはっぴょうかいにでたいです。

これからもがんばりたいです。

南野 ゆかり

## 短期入所・灯（あかり）

短期入所・灯は大阪市西区北堀江にあるマンション、グラント西長堀の3DKのお部屋3室で、一日の定員が6名の事業所です。現在は新型コロナウイルス対策として、毎日朝夕の検温、手指の消毒、密を避けた食事を徹底しながら運営をしています。21名の利用者さんが契約をされていますが、新型コロナウイルスの影響で、利用を控えている方もおり、今は毎月のうち、13名ほどの利用者さんが定期的に入れ替わり、利用されています。

朝食三百円、夕食五百円、短期利用料八百円の合計千六百円で、利用者さんに気軽に利用できるような料金設定です。

短期入所の一日の流れとしては、各自夕方に仕事から帰宅、好きな時間に夕食を食べられます。食後は入浴や洗濯、テレビを観たり、あるいは自分の自由な時間

を過ごし、就寝されます。深夜は夜勤者が常駐し、翌朝に起床、朝食後、仕事に送り出します。

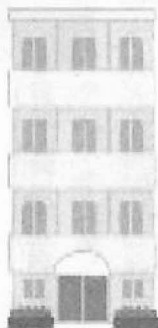
短期入所の目的は、親元を離れ、それぞれ将来の自立に向けた生活を体験する場であり、またご家族の急な事情に対応するため、一時的に生活をする場を提供することです。

利用者さんには、自分で出来ることは自分でしてもらい、苦手なことは職員が支援しながら生活してもらっています。例えばお部屋の整理整頓や、ご自身が使った衣類の洗濯等、生活

をする上で欠かせないことを体験しています。

利用者さん同士の相性に配慮し、各自お部屋を割り振っていますが、ご実家とは勝手が違い、普段自分が生活している環境と違うことに戸惑う方もいます。

しかし体験を重ねることで、利用者さんはそれぞれ利用時の楽しみを見つけています。例えば職員と買い物に出かけたり、近所を散歩したり、大好きなDVDを鑑賞したり、利用当初はそれぞれ退屈な時間もあつたと思いますが、職員と一緒に工夫し、考え、楽しく生活する術を身につけています。



短期入所は、将来のグループホームでの生活へ向けた格好の練習の場でもあります。

利用が8年ほどになるAさんは現在31歳、40歳には

グループホームに入居したいと言っています。

利用当初はなかなか生活リズムがつかめず、また環境の変化から、苛々したり、暴力的になったりと不安定な状態でした。しかし利用の回数を重ね、短期での楽しみ、外出活動や、大好きな動画の鑑賞などを見つけていくことで、現在はかつてないほど落ち着いて利用できています。以前なら職員が声をかけることで、食事や入浴をしていますが、今では自分でペースをつかみ、ご本人のリズムで行動できています。将来のグループホームでの生活が楽しみです。

一昨年11月から利用しているBさんは、なかなか他の利用者さんと過ごすことが苦手なようで、月に一回、一泊の利用も、他の利用者さんが少ない日を選ばれて利用しています。昨年4月に慣れていた職員が異動したことで、なかなか毎月定期的に利用することが難しい時期もありましたが、Bさんも利用回数を重ねることで、職員とも関係を作り、現在は毎月利用できるようになりました。

これからもそれぞれの利用者さんのニーズに寄り添いながら、利用して良かったと思ってもらえる、またご家族の一助になる短期入所のできるよう、職員一丸となって頑張りたいと思います。

コロナ禍の最中ではありますが、短期入所に興味のある、また体験してみたい利用者さん、ご家族の方々には、いつでもご相談に乗りますので、お気軽に灯までご連絡ください。(濱野)

# 法人忘年会



令和3年12月18日に新大阪に有るホテルメルパルク大阪で法人忘年会を開催しました。

ワークスユニオンの行事の中では、かなり昔から行っており、また一番多くの利用者さんが参加される大きな行事です。

コロナ禍で前後の行事が軒並み中止になる中、法人忘年会だけはタイミングよく開催する事が出来ました。そんな中、人との接触が少ない、座席移動をしない、

大きな声を出さなくても楽しめる事に近づけるゲームを考えました。そのゲームの一つが「ジェスチャーゲーム」です。

お題に沿ったジェスチャーを二人一組の職員で行い、利用者さんが回答します。回答方法は目の前に幾つかのカードを並べ、ジェスチャーと同じと思われるカードを選んでもらいます。お題はスポーツや動物などがあり、職員はどんなジェスチャーをすれば、利用者さんに分かって貰えるかアイコンタクトを取りながら頑張ってくれました。

利用者さんは回答する事より、普段見られない職員の動きに目がくぎ付けになっていたったり、またCさんは、ここぞとばかりジェスチャーに参加して場を盛り上げてくれていました。

食事提供にも、かなり気を遣いました。今までの卓盛から個別盛に変更すると料理の品数も量も減少します。何度か交渉した結果、多

くはないですが増やして貰う事ができ、初の個別盛に利用者さんからは「自分のペースで食べられて良かった」との安堵の声も聞けました。

色々な制約の有る中で開催した法人忘年会でしたが、多くの利用者さんや職員が集まった楽しい一日になりました。

最後に、忘年会の締めくくりとして、みんなが舞台上がり、歌って踊って一番盛り上がる「YMCA」が、今後出来る状況になっていく事を願います。

(助野)

# レッツ農!「むすびファーム」匠

昨年10月より「むすびファーム」という、生野区社会福祉協議会が運営する区内の空地を活用した無料のコミュニティ農園を借りることができました。場所は匠から歩いて15分ほどで、広さは2×5mくらいです。

芽が出たら、適当な間隔に間引かなければ大きく育たないそうです。行ってみると、みんながまいた通りにかわいい双葉が顔を覗かせています。間引いた双葉をその場で洗ってスプラウトとしておそろおそろ食べてみると、みんな口をそろえて「おいしい!」

最初に植える野菜は利用者さんにアンケートをとって、はつか大根、小カブ、水菜、小松菜、スナップエンドウにしました。11月に初めて利用者さんと一緒に種まきに行きました。種の袋にまき方が書かれています。利用者さんに好きな種を選んでもらおうと自由にまいて

利用屋さんには本格的な収穫というよりも、普段でしかない農作業を楽しんでほしいと思います。(松田)

います。その後じょうろで水をあげて、感想を聞くと、「次はいつ行くの?」「楽しかった」。

利用屋さんには本格的な収穫というよりも、普段でしかない農作業を楽しんでほしいと思います。(松田)



我が家の隣にあった古屋付きの土地が売りに出たので、最後の道楽として「家庭菜園」をしようと考え、少し高かったが買った。

建物の撤去と土の搬入が終わり、去年の秋に「菜園」は完成した。土が肥えていないので、良い野菜はまだできていないが、土づくりから始め、おいしい野菜を作りたい。これで、仕事を引退しても、暇を持て余すことなく打ち込める物ができたと喜んでいる。

楽しみとなる物やしたい事は、人によって異なり、その人に合ったものを見つけられない。

私同様へピースモーカーだったユニオンの最長老の

Dさんは、グループホームに入居した時にはタバコをやめていたが、時々Eさんの部屋を訪れ、貰いタバコをしていた。

「Dさんはタバコが吸いたいのではないの？」と担当に聞くと、記憶力も衰えており、火事が心配で...とのことなので、電子タバコなら安全も担保できるので、買ってみてはと伝えた。

私は、タバコ代は生活を圧迫するまでには至らないだろうと考え、本物の電子タバコを想定していたので、私としてはDさんへの後ろめたさも残るのだが、担当が買ったのは、ニコチンを含まない単なる水蒸気が、タバコの煙の様に出る電子タバコの偽物。

しかし、Dさんはこの偽物から出る煙と見える物を吸うことでタバコを吸った気分になれてとても満足。

体に害なく財布に優しく本人も満足。これも私たちの目指す支援。

職員紹介

**岩本 飛鳥** (む)ーグランド

行動を見る、周りに話を聞くなどその方にとって一番必要なことは何か、模索し、利用者さんと向き合うことを大切にしています。

趣味は立体の作品づくりやイラスト画などの創作関係と、テニスやお菓子作りなど多種多様。大学は彫塑を専攻し、卒業制作では塑造で立体作品を作ったそうです。人物像は得意だった

そうですが、「完成した作品を自宅の部屋に置いたら、人物像は嫌。」とのことで、可愛いキャラクターと全長

2mを越す「ドラゴン」を作成したそうです。

現在、創作活動は小休止中。それでも創作のアイデアに溢れ、やる気が起きるのを待っています。

**播本 駿人** (む)ーメソニー

メゾン職員として入職して半年が経ちました。入職前は、ホテルのスタッフやレストランで働き、飲食店の経営を考えていました。

感染症が拡大したことで方向転換してヘルパーを経験後にユニオンへ。

趣味は、音楽とレザークラフト。レザークラフトは4年前から始め、「たばこ入れ」や「携帯カバナー」も自作しています。音楽では、某有名バンドのメンバーと組んでいた事も有ります。幅広い趣味を生かして利用者さんの才能を拡げる支援員になりたいそうです。また、生きる事にテーマを持っており「自由」(自由と我儘は違う)と自負しています。

(島村・川口)

編集後記

▼すっかりマスク生活に慣れてしまったが、コロナ禍で対人コミュニケーションにも変化が生じたらしい。

▼人がコミュニケーションを取るときは、会話だけでなく喜怒哀楽を表情や感情で共に伝えている。しかし、しか見え、お互いの表情や感情を読み取ることが難しい場面が多いと感じる。

支援の場面でも同じ状況に陥ることがあると思う。▼コロナ禍でも相手に誤解を生まないコミュニケーションの方法を調べると、「目で笑うこと」・「明るい声で話すこと」などが有効、そして、「言葉に感情が乗るからこそ、どんな状況でも相手に思いが正しく伝わる」と書いてあり、支援にも活かしてみたいと思った。▼毎日必然と行っている会話が、相手により伝わりやすい方法に見直す良い機会となった。

(T)